
別の論点。「本門の本尊」について、牧口先生は獄中訊問調書で以下答えられています。(牧口常三郎全集第10巻185頁、創価教育学会々々長牧口常三郎に対する訊問調書抜粋より) 一問 創価教育学会の指導型念及目的は一に対し、牧口先生は、答 創価教育学会の目的は規約要項第二条の以下であるとお答えです。一

三大秘法とは本門の本尊、本門の戒壇、本門の題目の事でありまして、それは法華經の寿量品の文底秘法(法一表記のママ、括弧で沈と。)の大法と日蓮聖人は申されて居ります。此の三大秘法は本門の本尊である曼荼羅に総べての人が帰依する事に依って具現する事になります一と。

(私見) 上記より、三大秘法、就中、**本門の本尊**が創価学会の根本であると拝せます。そして、池田先生の「**原本**」の以下ご指導は最重要文と拝します。一

「本門の本尊」御函頭が出世の本懐 (38頁)

「法体の妙法蓮華經の五字を弘め給うのみならず、宝塔の中の二仏並座の儀式を作り顕すべき人なし」一との御文の中に、**本門の題目と本門の本尊**を示されておられます。「法体の妙法蓮華經の五字を弘め給う」が、本門の題目を弘通されていることでもあります。「宝塔の中の二仏並座の儀式を作り顕す」は、**本門の御本尊**を建立されることでもあります。もし、大聖人が、単に「南無妙法蓮華經」の題目流布のみをもって本懐とされたとするならば、「妙法蓮華經の五字を弘め給うのみならず、宝塔の中の二仏並座の儀式を作り顕す」とは言われなかったであらうでしょう。むしろ「宝塔の中の二仏並座の儀式」すなわち御本尊を顕されたところにこそ日蓮大聖人の出世の御本意があったことは、この文に明確にうかがわれるのであります一と。

上記より、今、聖教新聞が「諸法実相抄」の解説で、池田先生の本当のご指導一「**本門の本尊**」御函頭が出世の本懐一を全く無視、題目に偏して解説したことは、三代会長の真意とお心に反した忘恩、師敵対以外の何ものでもないと思断じます。そして、私は、池田先生の講義には記されていませんが、上記一むしろ～御本尊～日蓮大聖人の出世の本懐一の文には、「**本門の本尊**」が本門の題目を含んだ上位の「**一大秘法**」の原理を包含し、この文により「曾谷入道殿許御書」の「**一大秘法**」を「**本門の本尊**」と拝せると考えます。(※「**一大秘法**」についての私見を、本稿9頁以降、さらに論述しました。)

別の論点。私は、1966年(昭和41年)に、池田先生が高等部に対して講義された「諸法実相抄講義」(大白蓮華5、6、7月号掲載)を拝読しました。ここには、1977年の講義「**原本**」(池田大作全集第24巻に収録)とは少し異なる論点からのご指導があり、拝読し大感動致しました。その主要な文を以下に引用掲示します。講義の冒頭から一「**諸法実相**」とは、文底から拝するならば三大秘法の御本尊それ自体の事を言うのです一と。また一「南無妙法蓮華經 日蓮」とあります。南無妙法蓮華經は法本尊、日蓮は人本尊で人法一箇一と。さらに一(趣意) 釈迦はご本仏の脇士と。この御書の結論が明記されています。

會長
講義

諸法実相抄

(上)

— 高等部員に対する御書講義より —

1966年
(昭和41年)
大日蓮尊5月号より

はじめに

この御書は、日蓮大聖人の仏法の肝心が説かれていて、極めて重要な御書であります。したがって思索すればするほど、説明すればするほど、その深さがわかってくる御書であります。

はじめに、「諸法実相抄」という題号についてですが、一つは、方便品の「諸法実相・所謂諸法」という文について説明した御抄であることを意味するのです。

つぎに「諸法実相」とは、文底から拝するならば、**三大秘法の御本尊それ自体**のことをいいます。

諸法とは、いうまでもなく十界三千の諸法です。それが大御本尊にそのまま実相として縮図されているのです。すなわち十界三千の諸法が南無妙法蓮華経の一法に具足した姿、これが御本尊の相貌であり、諸法実相なのです。具体的にいえば、中央に「南無妙法蓮華経 日蓮」とあります。南無妙法蓮華経は**法本尊**、日蓮は**人本尊**で、**大法一箇**であることを示しています。これが十界三千の諸法の当体であり、本質であります。この左右にしたためられた十界は、大聖人已心の十界であり、南無妙法蓮華経の光明に照らされた十界の生命活動であります。

これは、池田会長が、本年一月と二月の二回にわたって、高等部員の代表に講義したものに、会長自ら加筆して、本誌掲載のはこびとなったものである。

基礎的な仏法用語の解説から、深遠な哲理、生活面への応用等、多角的な内容をもつ講義であり、高等部員はもちろんのこと、全学会員が熟読して、御書拝読の基本を身につけるべきである。後半は六月号に掲載される。

まず、左右両側の上の方に**釈迦牟尼仏**と**多宝如来**とありますが、これは仏界をあらわしております。また**御本仏の脇士**をあらわしております。その両脇に**上行**、**無辺行**、**浄行**、**安立行**の四菩薩がしたためられています。これは菩薩界をあらわしています。それから**舍利弗**、**迦葉**等は縁覚界と声聞界、**大梵天王**、**帝釈天王**、**大日天王**、**大月天王**、**第六天の魔王**等は天界、**転輪聖王**等は人界、**阿修羅王**等は、**どうぜん修羅界**、**竜女**等は畜生界、そして**鬼子母神**、**十羅刹女**等は**餓鬼界**、最後に**提婆達多**等は**地獄界**です。

このように、大御本尊は十界の諸法が、そのまま実相としての当体

されば法界のすがた妙法蓮華經の五字にかはる事なし、釈迦多宝の二仏と云うも妙法等の五字より用の利益を施し給ふ時・事相に二仏と顕れて宝塔の中にして・うなづき合ひ給ふ、かくの如き等の法門・日蓮を除きては申し出す人一人もあるべからず、天台・妙楽・伝教等は心には知り給へども言に出し給ふまではなし・胸の中にしてくらし給へり、其れも道理なり、付属なきが故に・時のいまだ・いたらざる故に・仏の久遠の弟子にあらざる故に、地涌の菩薩の中の上首唱導・上行・無辺行等の菩薩より外は、末法の始の五百年に出現して法体の妙法蓮華經の五字を弘め給うのみならず、宝塔の中の二仏並座の儀式を作り顕すべき人なし

「されば法界のすがた妙法蓮華經の五字にかはる事なし」大宇宙といつても、一切が妙法蓮華經の作用である。

日本の国は、たくさん都道府県や市町村にわかれているけれども、「日本」という二字の中にぜんぶ含まれます。

また、世界には百数十か国がありますが、「世界」という言葉の中に、みんな含まれてしまう。それと同じように、大宇宙の一切のものは「妙法蓮華經」に、ぜんぶ含まれる。すなわち、一切が妙法蓮華經の作用なのだということです。その根本の妙法蓮華經を受持しているのですから、われわれは強いのです。

916
 「釈迦多宝の二仏」と云うも妙法等の五字より用の利益を施し給ふ時、
 釈迦とか多宝如来とか、りっぱな仏様がいらっしゃるけれども、それも、
 じつめてみるならば、妙法蓮華經の五字、この根本法から出た、
 具体的な働きとして、利益を施しているにすぎないのです。

釈尊の位置づけが明確である。また、宝塔の「儀式」を明確にされた御文。

917
 ◎ ここは、俱体俱用といって、御本尊におしたための、「南無妙法蓮華經」日蓮が俱体になるのです。そして、釈迦・多宝等の一切の仏・菩薩は、俱用になります。
 ◎ ですから、この一事からも釈迦を本尊とたてることは、まちがいであることがわかるでしょう。南無妙法蓮華經を盗んで唱えている既成宗教ならびに新興宗教のほとんどぜんぶが、釈迦を本尊としております。それは、この文が読めないからなのです。文は読んでも真意がつかめない。「相伝なきは木石に等し」といわれるとおりです。

虚空会を文底より拝せば
 御本尊の姿を示す

「妙法等の五字より用の利益を施し給ふ時」つまり、仏法力による利益を施されるとき、そのとき「事相に二仏と顕れて」——事実の相、実相として釈迦多宝の二仏とあらわれて「宝塔の中にして・うなづき合ひ給ふ」たのです。

◎ これは法華經二十八品の上から論ずるならば「虚空会」の儀式になるのです。虚空会の儀式というのは、法華經の宝塔品第十一から囀累品第二十二までの説法の儀式で、釈迦が、虚空に出現した多宝の塔の中に入って、多宝如来と並んで坐り、また大衆もすべて虚空に在住するという姿で、説法がつづけられるのです。これはすなわち、文底に約するならば、御本尊のお姿なのです。「南無妙法蓮華經 日蓮」と御本尊の中央におしたためありますが、その左右に、「用の利益」——南無妙法蓮華經の働きとして「釈迦・多宝の二仏が並座し仏界を代表しているのです。おたがいうなづきあうとは、中央の日蓮大聖人様に向かい、南無妙法蓮華經のお使いとして、仏界の代表として活躍しますという姿なのです。このように虚空会の儀式は、御本尊のお姿を説明しているのです。これが法華經の肝心要になるのです。

したがって法華經二十八品は、この大宇宙に、御本尊のお姿をえがいているのです。虚空、すなわち全宇宙が、南無妙法蓮華經を根本として十界三千の働きになっている。それを信すれば、仏になる。それ

釈迦を本尊とたてることは、まちがいである、と。また、釈迦は南無妙法蓮華經のお使い、と明確。

このことについては、日女御前御返事(一二四三頁)の中に「されば首題の五字は中央にかかり・四大天王は宝塔の四方に座し・釈迦・多宝・本化の四菩薩肩を並べ普賢・文殊等・舍利弗・目連等坐を屈し・日天・月天・第六天の魔王・竜王・阿修羅・其の外不動・愛染は南北の二方に陣を取り・悪逆の達多・愚癡の竜女一座をはり・三千世界の人の寿命を奪ふ悪鬼たる鬼子母神・十羅刹女等・加之日本国の守護神たる天照太神・八幡大菩薩・天神七代・地神五代の神神・総じて大小の神祇等・体の神つらなる・其の余の用の神豈もるべきや、宝塔品に云く『諸の大衆を接して皆虚空に在り』云云、此等の仏菩薩・大聖等・総じて序品列坐の二界八番の雑衆等一人ももれず、此の御本尊の中に住し給い妙法五字の光明にてらされて本有の尊形となる是を本尊とは申すなり」とあります。

もしも朝晩の勤行のとき、法華經二十八品をぜんぶ読まなければいけないとなったら大変でしょう。みんな学校に遅れてしまうし、退転してしまいます。それを愚かにも「仏所護念会」などは、いまでもやっている。ぜんぜん大聖人のおおせになったこととはちがうのです。大聖人は「これを拝めば一切が含まれるのだ」と御本尊を残してくださっているわけです。もつとも文化的、もつとも簡明であり、矛盾のない教えなのであります。

「かくの如き等の法門」とは第三の法門、すなわち日蓮大聖人の法門です。断じて釈迦の法門ではありません。

「日蓮を除きては申し出す人一人もあるべからず」——すなわち大聖人が末法の御本仏であるという意味です。釈迦でもない。天台・伝教でもない。いわんや他の邪宗の教祖でもない。下山御消息(三六三頁)を拝せば、「教主釈尊より大事なる行者、日蓮」とお寄せです。なぜかならば釈迦仏法は脱益仏法で、過去のものだからです。

「天台・妙楽・伝教等は」——御本尊の中にも天台・妙楽・伝教がしたためられております。これは十界というよりも正師、正しい師匠をあらわしているのです。一切を御本仏日蓮大聖人へと伝えた像法年間の迹仏なのです。一応は、天台大師も伝教大師も、妙楽大師も最高の

日蓮本仏を宣言された「教主釈尊より大事なる行者、日蓮」が引用。

「されば釈迦・多宝の二仏と云うも用の仏なり」——この意味から考えてみるならば、釈迦といひ、多宝如来といつても、南無妙法蓮華經、そしてまた日蓮大聖人を当体とし、俱体とした、俱用の働きではないわけです。大聖人の位はすばらしいのです。同じくその本眷属であるわれわれの位もすばらしいのです。御本尊の中に釈迦・多宝があるわけですが、御本尊を拝していけば、釈迦・多宝を自由自在に使っていけるといふすばらしい境涯になれるのです。

「仏は用の三身にして迹仏なり」——「用の三身にして」とは、「体の三身」である自受用身に対して、その働きであり、三十二相を具備していたことをさします。「迹仏」とは本仏の影であり、釈迦をはじめ、釈迦仏法に結縁している仏のことです。

「然れば釈迦仏は……凡夫なり」——釈迦は、われわれ末法の衆生のために主師親の三徳をそなえているのではなくて、反対に釈迦仏を守ったのは、りっぱな仏にさせたのは凡夫僧の日蓮大聖人である。こうとるのが一つの訳し方です。だが、それだけではありません。釈迦仏を大聖人ととり、凡夫をわれわれとともいいいのです。

一往は釈迦仏は釈迦、凡夫は大聖人、だが再往、末法今時において、生活に約して論ずるならば、釈迦仏は大聖人ととって、凡夫はわれわれとともいいいのです。仏様、すなわち、御本尊の威光がよく理解されるのは、凡夫がいるからである、迷える凡夫がいるがゆえに、御本尊の威光、勢力がわかるのである——こうとともさしつかえありません。

御本尊を拝していけば、釈迦・多宝を自由自在に使っていけると。また、釈迦仏を守ったのは、りっぱな仏にさせたのは凡夫僧の日蓮大聖人と。ここでも日蓮本仏が明確である。

「天台云く『実相の深理本有の妙法蓮華経』と云云」——天台大師が諸法実相の深理、すなわち究極は何かといえば、本有の妙法、南無妙法蓮華経のことをいうのである。天台でもそういつているのではないかとおせです。

「此の積の意は……」——「天台云く」というところが教相、「此の積の意は」というところは観心です。実相の深理は本有の妙法なりと天台が説いている。この言葉を、大聖人が観心の上から解釈なさるには、その「実相」という名言は、迹門である。まだ理なのです。理論上の一応の義にすぎないのです。

「本有の妙法蓮華経」というのは三大秘法の御本尊の働きともいえるし、信心をもって生活の原動力にしていく、妙法の力を一切の原動力にしていくこともいえます。その当体、実践活動、それが本門です。御本尊を持つことが、ほんとうの諸法実相であり、これによって妙法蓮華経を会得することができるのです。また、それを力として悠悠たる人生を歩むことができます。これが本門なのです。本迹相對になります。

諸法実相ということ、一つは迹門の上から説き、今度は本門の上から解釈しているわけです。同じ諸法実相でも本迹がある。理論的にいうことは迹門であり、題目をあげきっていく姿は本門です。

◎ 釈迦の法華経方便品第二は迹門であり、三大秘法の御本尊、南無妙法蓮華経が、独一本門の法門、すなわち大聖人の法門なのです。信心に約せば、本門の本尊に本門の題目をあげきったときにはじめて、本門の妙法蓮華経の生命が湧現し、幸福の諸法実相、人間革命の実相、価値創造の実相となってくるのです。

(つづく)

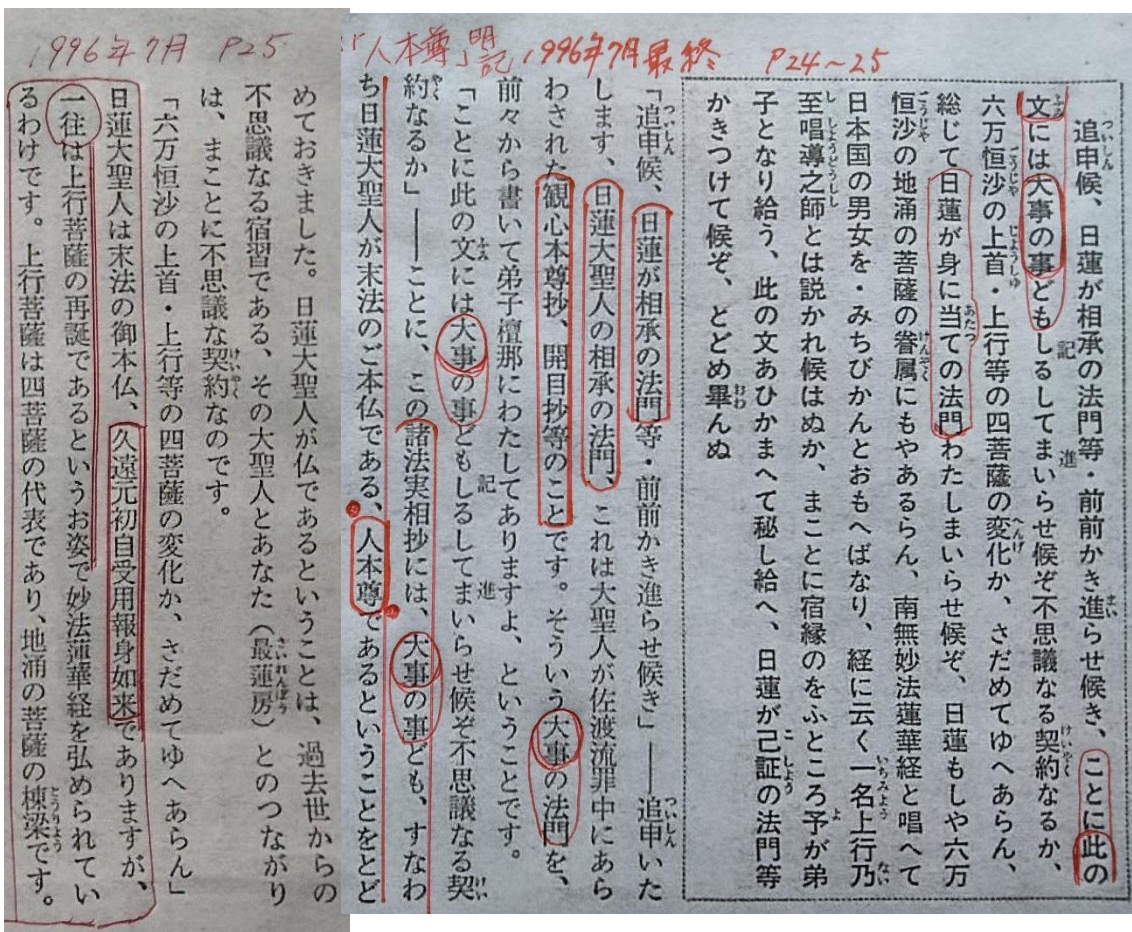
21

(私見) ここでの講義は非常に重要であり、結論として、**一大秘法の原理**をご教示であると拝しております。

池田先生は一天台大師が諸法実相の深理、即ち究極は何かといえば、本有の妙法、南無妙法蓮華経のことをいうのである——と明確にされ、それはまだ「理」であり、理論上の一応の義に過ぎない——と。その上で、日蓮大聖人の三大秘法の御本尊を持つことがほんとうの諸法実相であると明確にされ、御本尊の力によって妙法蓮華経を会得できる——と、**本迹相對**をご教示です。

そして、**一本門の本尊に本門の題目をあげきったときにはじめて**本門の妙法蓮華経の生命が湧現——と。この一文から、本門の題目も**本門の本尊**がなければ、それは「理」だと解釈でき、それはさらに本門の題目は**本門の本尊**という**一大秘法に帰着する**との原理、即ち、**三大秘法の集約である一大秘法(御本尊)の優位性**を含んでいるのだと拝しております。

このことについては、以下9頁以降でさらに私見を述べました。

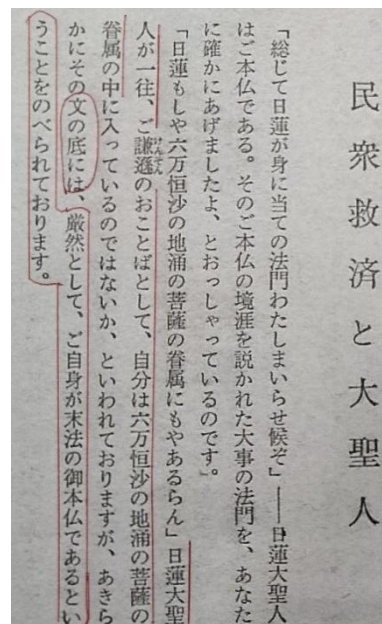


以上、池田先生は、高等部への「諸法実相抄」の講義の最後で、御文「**大事の事ども**」について**日蓮大聖人が人本尊で、久遠元初の自受用身如来である**—を明記なのです。それを無視した今回の聖教新聞のユニスタは、池田先生の本意を無視した、ただの勝手な作文！としか言えない。これでは、「創価学会会憲」の一三代会長を**永遠の師匠**と仰ぐ—にならない。

こんな酷い作文を学会の未来を担う学生部に示してはならない。なぜゆえ、**池田先生の本当のご指導**を学生部に伝えないのか。私は、こんな不正を断じて認める訳にはいかない！

池田先生は御書を文上、**文底**、また、**一往と再往**とに、しっかり講義されています。ゆえに私は、この度の聖教新聞のこういう**悪質な「だまし」**は徹底的に暴かなければならないと決意しました。また、これまで多くの教学近刊本を読み、結論、2010年以降の教学書は全て信用できないと断言します。右上の文は「諸法実相抄」の結論です。そこにも、きちんと「**文の底には**」と明記です。それを、聖教新聞は弁えなければならぬ！ 池田先生の著作の変更、削除、改竄については、親友**中村誠**氏の以下の著作をご参考下さい。「**釈尊が舵を取る創価の船？『創価学会教学要綱』を中心にした異様な書物群**」： 2010年以前の池田名誉会長の著書との徹底比較検証 | 中村誠 |

Amazon <https://share.google/HEkdk0sVy3j1kOxJl>



別の論点。本拙文の2頁と6頁で「**一大秘法**」についての私見を少し述べましたが、ここで、池田先生の他の御書講義に記述の**三大秘法と一大秘法**のご指導を通し、**三大秘法の御本尊**について記さない聖教新聞について、更に破邪顕正します。

「開目抄」講義（池田大作全集第24巻）には一 開目とは盲目を開く義
本抄は、日蓮大聖人こそが、末法の御本仏すなわち「**人本尊**」であられるという御内証を明確に宣言された重要な御書である。その翌年の、文永十年（一二七三年）には、同じく佐渡の国において法本尊開頭の書、すなわち「**観心本尊抄**」を著されていることに末法永遠にわたる**人法一箇**の大御本尊御建立への理論的基盤が整ったといえる。（中略）御書を拝読する場合「一往・再往」という立て方がある。更に「総・別」「文上・**文底**」「三重秘伝」「四重興廢」「五重相對」という大変深い次元のとらえ方がある。こうした規範、原理を基に、仏教のあらゆる法門を理論的系統的に明確に把握し、その高低、浅深を分析していけば、その**最高峰は、南無妙法蓮華經の大御本尊という一大秘法**になってくる。その**一大秘法を開けば三大秘法**となり、それを更に聞いていけば八万法蔵の仏教全体へと広がっていくのである。南無妙法蓮華經は、いわば、全仏法の根本、そして成仏の根本の法であり、この妙法によってのみ、一切の仏は成仏したのである一と。

「観心本尊抄講義」（池田大作全集第24巻）には一
三大秘法に配して「観心の本尊」を拝するならば、御本尊それ自体が本門の本尊であり、御本尊を信受し唱える題目は本門の題目、御本尊所住の所が本門の戒壇であります。この**三大秘法も究極する**ところは「観心の本尊」の**一大秘法に収まる**ことを知らなければなりません。すなわち、**本門の本尊とは、久遠元初自受用報身としての生命それ自体**であり、本門の題目は、この無作三身の生命の宝号たる南無妙法蓮華經であります。すでに挙げた「**法華經の題目を以て本尊とすべし**」との「本尊問答抄」の御文に照らしても明白であります。（中略）釈迦仏、多宝仏を脇士とし、更に上行等の四菩薩を釈迦仏、多宝仏の脇士としている久遠元初の仏を中心にした戒壇即本尊は正像に未曾有であり、これが大聖人御建立の「観心の本尊」なのであります。この御本尊が即事の戒壇であるという深義については、すでに日達上人が明確にお説きくださっているとおりであります。**大御本尊を三大秘法総在の御本尊と申し上げ、三大秘法といえども一大秘法に帰着**すると言われるゆえんは、ここに存するのであります一と。

（私見）池田先生は「**原本**」14頁で一人法両面から、末法一切衆生の尊敬すべき根本を明かされたことは**人本尊開頭の書たる「開目抄」、法本尊開頭の書たる「観心本尊抄」の結論が、ともに、この一書の中に包含**されていると、私には拝せられるのであります一と。

このご指導から、今回の**聖教新聞のユニスタの記述**が、いかに上記、**池田先生の本当のご指導—南無妙法蓮華經の大御本尊という一大秘法—**に違背しているか明らかです。そしてそれは、結論、「**教学要綱**」の根本的邪義—**創価学会は、大聖人が覚知し説き示された一大秘法である「南無妙法蓮華經」を法宝として尊崇**（158頁）一と同根の不正であると断定できます。続いて、2頁と6頁で述べた**一大秘法**についての論述、その他を通して以下詳述します。

私は、本拙文2頁で以下記しました。— (原本)には

「宝塔の中の二仏並座の儀式を作り顕す」は、本門の御本尊を建立されることであります。もし、大聖人が、単に「南無妙法蓮華經」の題目流布のみをもって本懐とされたとするならば、「妙法蓮華經の五字を弘め給うのみならず、宝塔の中の二仏並座の儀式を作り顕す」とは言われなかったであります。むしろ「宝塔の中の二仏並座の儀式」すなわち御本尊を顕されたところにこそ、日蓮大聖人の出世の御本意があったことは、この文に明確にうかがわれるのであります—とあります。

池田先生の講義には記されていませんが、私は、上記—むしろ～御本尊～日蓮大聖人の出世の御本意—の文には、「本門の本尊」が本門の題目を含んだ上位の概念「一大秘法」の原理があり、この文により「曾谷入道殿許御書」の「一大秘法」を「本門の本尊」と拝せると考えています—と。

また、6頁で以下記しました。—

池田先生は一天台大師が諸法実相の深理、即ち究極は何かといえ、本有の妙法、南無妙法蓮華經のことをいうのである—と明確にされ、それはまだ「理」であり、理論上の一応の義に過ぎない—と。その上で、日蓮大聖人の三大秘法の御本尊を持つことが、ほんとうの諸法実相と明確にされ、御本尊の力によって妙法蓮華經を会得できる—と、本迹相對をご教示です。そして、—本門の本尊に本門の題目をあげきったときにはじめて、本門の妙法蓮華經の生命が湧現—と。

この文脈から、本門の題目も本門の本尊がなければ、それは「理」だと解釈でき、それはさらに、本門の題目は本門の本尊という一大秘法に帰着するとの原理、即ち、三大秘法の集約である一大秘法の優位性を含んでいるのだと拝しております—と。

また別件、私は、昨年4月2日に拙文—戸田先生のご指導とも大違背の「新版法華經方便品・自我偏講義」の邪説—を記し、その43—44頁に、三大秘法と一大秘法について、戸田城聖全集のご指導を引用し私見を記しました。また、また45—49頁には、ある学会員の考察が非常に分かり易いので掲載しています。正論と拝しています。ご参考下さい。 <https://share.google/QyfOUjtjPR4M56JeM> —

(43—44頁の私見)「教学要綱」は—三宝の法宝は「御本尊」を削除して「南無妙法蓮華經」に変更(156頁)、一大秘法も「本門の本尊」を「南無妙法蓮華經」に変更(158頁)。また、それ等全てに理由がない。以下反証します。(なお、「教学要綱」の重大な不正・邪義17については <https://share.google/XZYkgCHZOy3CZ7eBO> をご参考下さい。)

戸田先生は—

「仏法には三宝といひまして、仏の宝、法の宝、僧の宝がかならずなければなりません。(中略)法華經の迹門では、仏宝は始成の釈尊、法宝は法華經、僧宝は普賢文殊菩薩となります。(中略)これに対して、ただ一つ日蓮大聖人の正法正義では、法宝は三大秘法の南無妙法蓮華經、仏宝は全世界でただお一人、南無妙法蓮華經を弘められた久遠元初自受用報身たる御本仏日蓮大聖人、僧宝は日蓮大聖人の仏法を正しく承継された御開山日興上人となっているのであります。

しかるに、邪宗日蓮宗のやからは、文上の釈尊を仏宝とし、法宝をば南無妙法蓮華經、僧宝をば日蓮大菩薩とし、人即法の法理を無視した邪説を唱え、仏法の根幹を誤るがゆえに、一切の法を誤り、功德がないどころか大罰をまねいている現状であります。これ恐ろしき日本の仏法の乱れであります。(戸田城聖全集第5巻264頁)

また、「南無妙法蓮華經とは一大秘法で、これを開いては三大秘法となる。三大秘法合してまた一大秘法となる。一大秘法とは、本門の本尊であり、この本門の本尊をひらければ、本門の本尊、本門の題目、本門の戒壇となる。又この本門の本尊、本門の題目、本門の戒壇を合すれば、一大秘法たる本門の本尊となる」(第3巻253頁)

さらに、「南無妙法蓮華經と唱題するなかに三秘が備わっているというごときは(略)儂き邪宗の教学である」(第4巻266頁)。—この論述は、昭和30年3月11日の小樽問答を終えての戸田先生のご指導です。(3月13日の「小樽問答誌」掲載) *三秘とは三大秘法のこと。

(私見)これは戸田先生の日蓮宗身延派への破邪顕正の獅子吼で、「教学要綱」が一大秘法も「本門の本尊」を突如「南無妙法蓮華經」に変更したことへの誤りを、完全に破折されていると拝します。つまり、題目である南無妙法蓮華經に三秘が集約されるとした身延派への破折です。これは、現在にも当てはまるご指導でございます。

そして—「大聖人の法門に一大秘法、三大秘法、六大秘法の開合ということがある。一大秘法とは南無妙法蓮華經の本尊で、この一大秘法を開いて三大秘法となる。三大秘法とは、この本尊に向かって唱題したてまつり題目と、この本尊のおわす場所たる戒壇である。すなわち本尊、題目、戒壇が三大秘法で、この三大秘法を開けば六大秘法となる。六大秘法とは、本尊に法本尊あり、人本尊あり、題目に信の題目、行の題目あり、戒壇に義の戒壇、事の戒壇がある。この六大秘法合して三大秘法となり、三大秘法合して一大秘法となる。」(第6巻開目抄講義312頁)

また、全集第7巻64頁で、戸田先生は「観心本尊抄」について、次のように記されています。この論述は本門の本尊が一大秘法であることを述べられていると拝しております。その記述は一当抄の題号に多くの意を含む。いま日寛上人の御釈を略して示す。

1. 三大秘法を含む。—「如来滅後五の五百歳に始む」とはすなわち正像末弘の意である。「観心」の二字はすなわち題目である。そのゆえは本門の題目とは、ただ本門の本尊を信じて南無妙法蓮華經と唱えたてまつることであり、今この観心もまた本尊を信じて南無妙法蓮華經と唱える義であるから、観心即題目である。本尊の二字はまさしくこれ本門の本尊であり、その本尊初住のところは本門の戒壇である。ゆえに当抄の題号は正像末弘の三大秘法抄である。

5. 決定作仏の義を含む—如来滅後五五百歳に「始む」とは、すなわち末法下種の教主・本地自行の真仏無上の仏力である。「本尊」とはすなわち久遠元初自証の本法・尊無過上の法力である。「観心」とはわれら衆生が本尊を信じたてまつり、南無妙法蓮華經と唱うる義であるから、信力、行力ではないか。信力・行力・仏力・法力とは決定成仏の義をあらわすのである。(中略)鳳凰は樹を選んで栖み、賢人は主を選んで仕えるという。仏法を学ぶ者がどうして、本尊を選ばないで信行できようか。 11/22

もし正しい本尊でなければ、たとえ信力・行力を励んでも仏種を成ずることはできない。当抄をよくよく拝して、法華經文上・熟脱教相の本尊を簡別し、下種觀心の本尊を肝に銘ずべきである。

この御本尊は三世の諸仏の御師であり、八万宝蔵の肝心であり、正中の正鏡、妙中の妙鏡である。ゆえにこの御本尊を一念も信解する功德は五十展転の功德にも超え、「妙法經力、即身成仏」といわれるのである。ゆえにこの御本尊は最極無上の尊体であらせられ、尊無過上の力用があらせられるのである。末法の今日において仏道を修行せんとする者は、すべからく信力・行力の觀心を励むべきである。一と。

(私見)戸田先生の上記ご指導は、本門の御本尊が根本であり、それを拝して、觀心である題目「南無妙法蓮華經」を唱えることが大事であるとの意であり、即ち、三大秘法は一大秘法である「本門の本尊」に収まるとの意義が、ここに記されていると拝します。一と。

また、別件、私は、上記多くの私見を持ちながら、御書本文と日蓮大聖人御書講義第19卷「曾谷入道殿許御書」を拝しました。

曾谷入道殿許御書に記述の「一大秘法」について一御書全集1030頁、新版1397頁には一 大覺世尊、仏眼をもって末法を鑑知し、この逆・謗の二罪を対治せしめんがために一大秘法を留め置きたもう。いわゆる、法華經本門久成の釈尊、宝淨世界の多宝仏、高さ五百由旬・広さ二百五十由旬の大宝塔の中において二仏座を並べしこと、あたかも日月のごとく、十方分身の諸仏は、高さ五百由旬の宝樹の下に五由旬の師子の座を並べ敷き、衆星のごとく四百万億那由他の大地に列坐したもう。三仏の二会に充満したもうの儀式は、華嚴寂場の華蔵世界にも勝れ、真言両界の千二百余尊にも超えたり。一切世間眼は、この大会において、六難九易を挙げて法華經を流通せんと諸の大菩薩を諫曉せしむ一と。

日蓮大聖人御書講義第19卷 189頁には一 (通解) 今、まのあたりにこの国を見聞するに、人ごとに五逆と誘法の二罪を犯している。このような大悪人は大覺世尊は仏眼をもって末法を見通され、この五逆と誘法の二罪を対治されるために一大秘法を留め置かれたのである。いわゆる法華經本門久遠実成の釈尊と宝淨世界の多宝仏が、高さ五百由旬、広さ二百五十由旬の大宝塔の中に・おいて並坐したことは、ちょうど日と月のようなものであり、十方分身の諸仏は高さ五百由旬の宝樹の下に五由旬の師子の座を並べ敷き、多くの星のように列座されたのである。四百万億那由他の大地に釈迦仏・多宝仏・十方分身の諸仏の三仏が虚空と靈鷲山の二つの会座に充満された儀式は、華嚴經の寂滅道場の華蔵世界にも勝れ、真言の胎蔵・金剛両部の千二百余尊にも超えており、一切世間の眼というべき姿であった一と。

211頁には一 (講義) 釈尊が「逆・誘の二罪」を対治する一大秘法を留めたことを具体的にあらわしているのは、法華經の提婆達多品と不輕菩薩品である。すなわち、提婆達多品では、五逆罪のうち、破和合僧、出仏身血、殺阿羅漢の三逆罪まで犯し生きながら 無間地獄に墮ちた提婆達多について、その過去の因縁を明かすとともに、未来に天王如来となる、との成仏の記別を説いたのである。また、不輕菩薩品では、釈尊が遠い過去世に不輕菩薩として二十四文字の法華經を弘めた際、これを誹謗した衆生が、その後、無間地獄に墮ち、罪障消滅の後、逆縁の功德で再び不輕(釈尊)に会い、この法華經の会座に跋陀婆羅等として列なっていることを明かしている。

これは、謗法の衆生を救うことのできる妙法の功力を明かしているのである。つまり、こうした提婆達多品や不軽品の説法は、法華經に説く**法体(一大秘法)**が、五逆と謗法の衆生の充滿する末法をも救うことができることをあらわしているのである一と。

215頁には一(講義)末法弘通のために、本化地涌の菩薩の上首上行菩薩に付嘱された法について述べられている。それは法華經の肝要たる妙法蓮華經であり、名体宗用教の**五重玄**であると示されている。妙法蓮華經は、単に法華經の題名であるのではなく、法華經の**体**であり、**五重玄**を具えた法である。これを日蓮大聖人は、外用の辺では上行の再誕、内証深秘の辺では久遠元初自受用報身の再誕として末法に出現され、本門の本尊、本門の戒壇、本門の題目の**三大秘法**として御建立になった。この**三大秘法は本門戒壇の大御本尊に帰着するので、前記のように「一大秘法」と称される**のである一と。***

(私見)上記、日蓮大聖人御書講義には、一**三大秘法は本門戒壇の大御本尊に帰着するので、前記のように「一大秘法」と称される**一と、**一大秘法が御本尊と明確**です。それを無視したのが、今回の聖教新聞の諸法実相抄の作文なのです！

そして上記の講義より、私が前述した論考一(趣意)池田先生の(原本)には本門の題目は**本門の本尊**という**一大秘法に帰着する**との原理、即ち、**三大秘法の集約である一大秘法の優位性**を含んでいるのだと拝しております(本拙文9頁)一も、正当性があると考えます。

(結論)以上、これまでの論述を踏まえ、私は、今回のユニスタ「諸法実相抄」の解説は、池田先生が「原本」で、何回もご教示、ご指導された**三大秘法の御本尊**を全く無視しただましの作文である！また、ユニスタは、過日、私が指摘した「教学要綱」17箇所(*)の不正の16番一**創価学会は大聖人が覚知し説き示された一大秘法である「南無妙法蓮華經」を法宝として尊崇**(158頁)一との邪義と、まさに同根であると！断じます。

そしてさらに、私は、ユニスタが**御本尊**を軽視したのは、過日、私とその不正を指摘した池田先生の「法華經 方便品・寿量品講義」を77箇所(**)も変更、削除、改竄した「新版法華經方便品・自我偈講義」の10箇所にも及ぶ**御本尊についての記述の削除**と、**底意が同じ、同根である**と断じます。なお、その10箇所については、文末(16頁以降)にまとめて掲載しましたのでご参考下さい。まさに**言語道断の削除、改竄の作文集**です。

(*17箇所の16番目については、拙文 <https://share.google/GDOcjCy25oTd57PTY> の21頁、また、**77箇所については25頁以降に75箇所。76番目は10頁、77番目は48頁に記し置きました。ご参考下さい。)

池田先生の本当のご指導「**原本**」77頁には—

この「**釈尊久遠の弟子**」の「**釈尊**」とは、一往は法華經本門の教主釈尊であります、再往の辺を拝すれば、**久遠元初の自受用報身如来であり、末法御本仏日蓮大聖人**であります。日蓮大聖人は、久遠よりこのかた、地涌の菩薩を教化してこられたという意味です。

以上のことを結論づければ、日蓮大聖人と同意ならば、地涌の菩薩であることは決定的であり、それはそのまま日蓮大聖人の本眷属なのであります。この御文を、現実社会において読まれた方が、**初代会長牧口先生**であり、**二代会長戸田先生**であった。戸田先生は、獄中において、自ら地涌の菩薩の眷属であり、御本仏日蓮大聖人の本眷属であるとの自覚に立たれたのです。

私達は、この戸田先生という偉大な人格をとおして日蓮大聖人の仏法を知り、広布の道を進むことができるようになったのです。この妙法広布に生きる人がいかに尊いかは、あまりにも明瞭であります。またそうした人々に対して、いかばかりか御本仏の御称賛があることでしょうか。

さて、この「**釈尊久遠の弟子**」ということを生命論のうえから言えば、「**釈尊**」とは我が生命の内なる釈尊であり、南無妙法蓮華經如来であります。地涌の菩薩が、釈尊の久遠の弟子であるということは、上行、無辺行、浄行、安立行等の地涌の生命が、奥底の南無妙法蓮華經如来という本源に根ざした働きであることをあらわしているのであります—と。

また、99頁の以下も再読しました。—

如是我聞ということは、ただ単に聞いたというような簡単な言葉ではない。もつとずっと強い主張が込められています。天台大師は『法華文句』で「我聞とは能持の人」であると述べている。つまり「**仏法の教えの真髓はこうだと私は確信する。したがって、この經文のとおり**に仏法を実践し、身をもってこの經文を証明していきます」といった決意が込められた言葉です。

日蓮大聖人も「**釈迦仏・多宝仏・未来・日本国の一切衆生のために・とどめをき給ふ処の妙法蓮華經なり**」と如是我聞されたと仰せられております。

ゆえに妙法流布のために、種々の大難を受けて法華經を証明され、末法万年の一切衆生のために、**御本尊をお遺しくださった**のです。この日蓮大聖人の仏法を、私達のためにとどめおかれた人間革命と世界平和の根本法であると、信徒の立場で如是我聞されたのが、まさしく**牧口初代会長**であり、**戸田二代会長**でありました。如是我聞されたがゆえに、広宣流布のために獄中で亡くなられ、また生き抜かれたのであります。これこそ、**学会精神の骨髓中の骨髓であることを生命に刻み込んでいただきたい**のであります。—と。

上記、御本尊様の意義、そして、**牧口・戸田・池田三代会長**の真実と偉大さを、この度の聖教新聞ユニスタは無視し、南無妙法蓮華經の意義ばかりを偏重している！**人法一箇の御本尊、日蓮大聖人即御本尊、日蓮大聖人即久遠元初の自受用身如来**を無視し、記さない作文は、池田先生の本当のご指導への不知恩、反逆以外の何ものでもない！

そして、41頁には—

南無妙法蓮華經とは日蓮大聖人の御生命そのものであり、ゆえに大聖人は、十方三世の諸仏を動かしていく当体であられる。私どもも**御本尊を受持**することによって、あらゆる仏、菩薩を動かしていくことができるのです。私どもには、なんと偉大な境涯の海が開けていることでありましょうか。本当の信力、行力を貫いていけば、「当体義抄文段」に「**我等、妙法の力用に依って即蓮祖大聖人と顕るるなり**」(文段集六七六円1)とあるごとく、**大聖人の生命が浪々とわいてくる**のであります—と。

(私見)上記は、「諸法実相抄」の結論と拝します。そして、—**我等、妙法の力用に依って即蓮祖大聖人と顕るるなり**—とは、日蓮仏法の究極であり、私たちひとりひとりがどれほど尊厳であるかを宣言された御文であり、池田先生のご指導なのです。

つまり、私たち一人一人の生命自体が諸法実相＝御本尊であるとの宣言の御書が「諸法実相抄」であるのです。この深義を聖教新聞は伝えるべきなのです！それをしないユニスタは池田先生のお心に違背したとしか言いようがない！読者、特に、学生部に池田先生の本当のご指導を伝えることこそがユニスタの使命である！それを怠った罪は大きい！

最後に、親友中村誠氏より、以下の**玉稿**を頂きました。完璧な正論と拝します。—

諸法実相抄に関してですが、最重な項目は、「**されば釈迦・多宝の二仏と云うも用の仏なり、妙法蓮華經こそ本仏にては御座候へ、經に云く「如来秘密神通之力」是なり、如来秘密は体の三身にして本仏なり、神通之力は用の三身にして述仏ぞかし、凡夫は体の三身にして本仏ぞかし、仏は用の三身にして述仏なり**」の御文です。

間接的な表現ではありますが、凡夫即妙法蓮華經即本仏(祈りの対象)、そして本仏とは大聖人であると説いているのが、この御書の趣旨であり、文脈上必ずそうなります。現在の創価の教学はこの文脈を完全に無視しています。

ここで注目すべきは、創価大学で行われた第74回日本宗教学会における、宮田教授の知人で、元日蓮正宗(日顕宗)の僧侶、花野氏の発言です。

<https://drive.google.com/drive/folders/1wSKZjIOPLvyJVxUCWU8LL-LHJrg4ZNNi>

—だからね、中古天台のその、イブンをずっと創価学会好きなんですよ、まあ日蓮正宗も好きなんですけどね。その名誉会長の講義って諸法実相抄講義、生死一大事血脈抄講義、それから、もうなにしろ中古天台、それは全部、立正大学的には全部偽物だということ。

私はそこもね、偽物なんだか、日蓮聖人にそういう思想があったのかどうかっていうこともきちんと議論しないと。全く思想になかった中古天台宗、創価学会中古天台宗ということになってしまっても、あれですからね—と。

その辺の議論、ようするに、大崎ルールによるならば、御義口伝も諸法実相抄も全部偽物なんだから、それらを元にした名誉会長の講義というのは全く意味をなさない。こうした考えが、ああした文脈を歪めた諸法実相抄の講義に繋がっている可能性が強いですね。

諸法実相抄は偽書なんだけど、役に立つから、教学要綱に沿った解説をして、都合の悪い箇所は無視しよう。こうした講義が御書根本とは到底言えませんね。「時の貫首為りと雖も仏法に相違して己義を構えば之を用う可からざる事」と日興遺誠置文にある「己義」そのものです。しかし諸法実相抄が偽書とする仮定が覆されることが起きています。それが、**三大秘法抄の古写本発見**。(*)この御書にはこうあります。

「寿量品に建立する所の本尊は五百塵点の当初より以来此土有縁深厚本有無作三身の教主釈尊是れなり、寿量品に云く「如来秘密神通之力」等云云、疏の九に云く「一身即三身なるを名けて秘と為し三身即一身なるを名けて密と為す又昔より説かざる所を名けて秘と為し唯仏のみ自ら知るを名けて密と為す仏三世に於て等しく三身有り諸教の中に於て之を秘して伝えず」等云云」

ようするに、如来秘密という寿量品の御文が本尊の依文となっていることを、**三大秘法抄**は説いています。古写本が発見されたことにより、大聖人にこのような思想がある可能性が極めて強くなりました。そしてこの思想は、先ほど引用した諸法実相抄の「**経に云く「如来秘密神通之力」是なり、如来秘密は体の三身にして本仏なり**」と全く同じ思想です。仮に諸法実相抄が後世による偽書であるならば、誰がこのような大聖人の奥義を伝えることができたのか、それが問題となるでしょう。同様に、以下の御義口伝の最重要の御文も全く同じです。

「御義口伝に云く此の本尊の依文とは如来秘密神通之力の文なり、戒定慧の三学は寿量品の事の三大秘法是れなり、日蓮髓に靈山に於て面授口決せしなり、本尊とは法華經の行者の一身の当体なり云云。」

これが偽書であるなら、いつ、だれが、御本尊の奥義ともいえる教を誤りなく伝えることができたのか、それが問われるでしょう。この観点から考えたならば、これらが真蹟である可能性が高くなります。大聖人でなければ、一体誰がこのような思想を間違いなく伝えられたのか。そしてこれらの御書は、いずれも「**文底の教主釈尊**」=**大聖人を本尊**とすることで一致しています。

従って、釈迦も大聖人も祈りの対象でない(祈りの対象は南無妙法蓮華經の法のみ)とする創価男子部教学室、及びそれに連なる執行部は、御書根本の精神から外れ、大聖人に弓を引いている謗法の教を説いているといえるでしょう。一と。

(*)**三大秘法抄の古写本発見**については、拙文戸田先生のご生誕日に思う―「教学要綱」の不正日蓮大聖人を祈りの対象(御本尊)とする文証、三大秘法抄の日向の古写本発見の衝撃 & 単法本尊を説く教学要綱の邪義! <https://share.google/CdecUV1NhwTWEihyZ> をご参考下さい。

この拙文では、**中村誠**氏の論考を中心に三大秘法抄について解説しています。

追記：私は、前回5月17日の拙文 <https://share.google/jOMUXeS1tkIFe9pk> の最終23頁に—聖教新聞と大白蓮華の不正を自活サイトへ掲載しただけで、4月19日に役職を解任され、その過程で幹部二人から、あなたは**破和合僧**であると言われて—を記しましたが、今回の聖教新聞を読み、やはり不正は続いていると断言します。また、既述の通り、それは「**教学要綱**」の邪義と同根だと再度思うと同時に、この度ではさらに、「**教学要綱**」こそが、**破和合僧の化身**そのものだと断言します！

本日は**牧口先生のご誕生日**です。謹んで報恩感謝申し上げます。牧口先生の大著「**人生地理学**」は、自然とそこに住む人間との相関性を論証されていますが、その視点のひとつとして第1、42頁に—「**周囲の事物を精細に観察するならば、他日（大）世界を理解すべき原理は（郷土）に確定されている**」—とございます。

この一文から、私は、結論、一地域の学会の実態は学会総体の実態を反映するのだと思い、今回の私に対する問答無用の一方的な役職解任は現在の学会総体における弊害を物語っていると思っています。そしてそれは、この10数年の学会教学が、**日蓮大聖人と御本尊様**を貶めた結果、**日蓮仏法の深義一人間は宝塔、即ち、御本尊**そのもの—との根本的意識が破壊され、ひとりを大切にとの池田先生のご指導も、忘却されたからだと感じます。

また、それは、今回、幹部が私を完全に無視し、地域組織にもそれを徹底した事に現れていると感じます。私は、その時、幹部からの通達を黙って聞いていた数十名の方々の人権意識にも失望です。なぜ、最重要の対話まで無視し、ひとりをそこまで追い詰めるのか、現代社会でこんな暴挙があつてよいのか。その時、数十名の方々は私を悪人と断定されたのだと思うと今も胸が痛い。誰一人幹部に対して糺さなかったのは非常に危うく、厳しく言えば、その方々も悪に加担した与同罪であり、身口意の三業として個々の生命に刻まれると思っています。悪の共業です。

私は、このような事態の根本因は、結論、池田先生が教示された本当の諸法実相抄講義が完全に無視され、**諸法実相即御本尊**の根本義が捨てられたことと同じく、**池田先生の本当のご指導**が、悉く、削除、変更、改竄された現在の学会教学によって、日蓮仏法、また、創価学会が本来持っていた「**生命尊嚴の理念**」そのものが、希薄化され、学会員さんの人権意識、もっと言えば邪悪に対し破邪顕正する生命力が非常に低下してしまったからだと思わざるを得ません。

7月5日所沢の日を迎えます。昭和53年（1978年）池田先生は所沢初訪問の折、**信心の理想郷所沢**をと期待のメッセージを下さいました。しかし、ひとりの人を大切にすることはほど遠い今の所沢では先生のお心に適っているのか？甚だ疑問です。今年こそ所沢広布75周年の佳節です。残念でなりません。私は、学会創立100周年へ、池田門下生の責務、使命としてさらに破邪顕正をしていく決意です。

この拙文を親しき友人にお伝え下さい。そして、皆様の忌憚なきご意見、ご指導を、kiroiara.526@gmail.com にお願ひ申し上げます。

敬白 凶齊 修

*以下、資料を添付致しました。ご参考下さい。

(参考)

池田先生の「法華経 方便品・寿量品講義」を77箇所も変更、削除、改竄した「新版 法華経 方便品・自我偈講義」の中で、**御本尊の削除**についての10箇所。



45. 「講義」109～110頁にある小題「仏法は最高の「健康」「長寿」の法」の以下の文章があります。—**御本尊**への信心を根本として、人々の幸福のために祈り、動き、語る—そのリズム正しい繰り返しこそ、わが生命・生活を「長寿へ」「健康へ」「幸福へ」と向かわせるのです。私が以前、人生を健康で生きぬくために提案した次の“四つのモットー”も、この信心即生活のリズムを分かりやすく述べたものです。①張りのある勤行②無理と無駄のない生活③献身の行動④教養のある食生活、の四項目一。いわば信心は、最高の「健康の法」「長寿の法」でもあるのです。

以上の経文を**文底の立場**から読めば次のように言えます。まず「我が所に来至する」仏の前に衆生が集うことは、**文底**からいえば、**御本尊**の前に私たちが端座することです。仏は、衆生の機根を見て、それぞれの状態に応じて法を説く—末法で言えば、万人を救済する**日蓮大聖人の慈悲の御振る舞い**です。戸田先生は、この経文について、**御本尊**が、われわれの信心などを観じ、大きな慈悲を下さるのでであると述べられました。「諸根利鈍」とは、私たちの立場で言えば、信心の厚薄といえる。信心が深まれば深まるほど、**御本尊**の無量の功力を顕わすことができるのです—と。

しかし、「新版」248頁では、小題も上記全文を削除。

(私見)この、池田先生のご指導こそが方便品・寿量品講義の枢要ではないですか！ここには、人間にとって一番大事な健康について、**御本尊の素晴らしさを文底**からご指導です。それをなぜ、削除なのか！「新版」の発刊自体意味がない！

51. 「講義」68頁には— 表題で**色香美味とは「三大秘法」の御本尊**—と。しかし、「新版」336頁では、**この表題を完全削除して、新たな表題として、一末法における「大良薬」が南無妙法蓮華経—に変更。**

(私見)**「三大秘法」の御本尊を、なぜ、削除か！言語道断！**

53. 「講義」70頁にある池田先生の以下の長文—誰もが飲める(実践できる)ようにするか。これが「良医」としての仕事です。さて、子に薬草を飲ませる時、父は語ります。「この大薬は、色も香りも味も素晴らしいよ。みんな、飲みなさい。直ちに苦しみがなくなり、また、体が丈夫になるよ」と。**文底から見れば、御本尊の功德が示されている一節です。御本尊は苦しんでいる人にとっては大良薬です。祈りとして叶わざるなく、罪として滅せざるなく、福として来たらざるなく、理として顕ざるなし、という大功德がそなわっています。**—と。**しかし、「新版」338頁では、上記の赤字が完全削除され、ただ—この大良薬とは、末法においては南無妙法蓮華経であることは言うまでもありません。—だけに変更。**

(私見)「講義」で池田先生が表題の**「三大秘法」の御本尊**が消されている。そして、「講義」では、**大良薬は御本尊**と言われているのに、「新版」では南無妙法蓮華経に変更です。これはおかしい。御本尊の真義は人法一箇です。それを「新版」では出たくないの、ただ単に、**南無妙法蓮華経との「単法」のみ**でしか解釈しないのです。そして、「**御本尊**」の名称自体を削除。これは、酷いです。

63.「講義」124頁には— **大座談会運動**—今、全国津々浦々に、庶民の語らいの花園が広がっています。座談会は素晴らしき「生命の広場」です。**御本尊**を中心とした、信心の歓喜。感激。躍動。連帯—。その場所に、宇宙の**諸天善神**が続々と結集します。仏・菩薩が、皆さまの方を福運の光で包んでいくのです。にぎやかな生命と生命の触発によって、創価学会はぐんぐんと威光勢力を増していくのです。**牧口先生、戸田先生**もこの「民衆共和」の姿をどれほど喜んでおられることでしょうか。そして、**日蓮大聖人**がどれほど御称賛下さっていることでしょうか。さあ、仏法の生命論と一緒に学んでいきましょう！—と。**しかし「新版」385頁では上記が完全削除。**

(私見)池田先生の**大座談会運動**への思い、**御本尊**、**牧口先生**、**戸田先生**のお喜び、**日蓮大聖人**の御称賛を記された尊極のご指導なのです！それをなぜ、削除するか！

64.「講義」129には—小題が「常に**仏**と共に」の人生は強い」とあり、その「仏」の右には「**御本尊**」の添え書きがあります。しかし、「**新版**」388頁では—小題が—「**御本尊と共に、大聖人と共に歩む人生を**」に変更。

(私見)なぜ、池田先生が原本で記された「**仏**」=**「御本尊」**の「**仏**」を削除するのか。勝手な変更、完全な改竄！

65.「講義」130頁には—**御本尊は、大聖人の御魂をそのまま認められた仏**そのものであられる。**しかし、「新刊」389頁では—御本尊は、大聖人の御魂をそのまま認められた「妙法と一体の仏の生命そのものに変更。**

(私見)「新刊」は、なぜこんな「妙法と一体に」などというまるで日蓮大聖人の生命が、別物である妙法と一体になったかのような表現にするのか！それは結論、人法一箇を否定する底意なのだ！

68.「講義」150頁には—。私たちが、**御本尊**に向かって唱題することは、この「靈山一会」に参列する厳粛な儀式にほかなりません。唱題に励めば、己心の靈鷲山が、自身の胸中に輝いてくる。**わが生命それ自体が、虚空会となる—**と。**しかし、「新刊」407頁では、上記の赤字が削除。**

(私見)池田先生の生命観、ご指導が削除！言葉がない！

70.「講義」155頁には—小題「苦海の社会を常楽の太陽が照らす」のところで—**文底から言えば**、つねに住する不滅の仏とは、**御本尊**、**南無妙法蓮華経如来**です。その常住の仏が出現して説く無上の法とは、南無妙法蓮華経にほかなりません。私たちが不惜の信心で唱える題目の声は、そのまま常住の仏が無上の法を説く声となるのです。それは、功德の実証などを通じて、妙法の力を私たちに教えてくれます。**しかし、「新版」410頁では、上記、寿量品の最重要講義が完全削除。**

(私見)これ以上の改竄があるか！言語道断！

諸種天擊天鼓常作衆伎樂雨曼佉羅華
 種種寶莊嚴寶樹多華果衆生所遊樂
 我此土安穩天人常充滿園林諸堂閣
 及餘諸住處衆生見劫盡大火所燒時
 神通力如是於阿僧祇劫常在靈鷲山

71. 「講義」158 頁には自我偈本文の一 **神通力如是 於阿僧祇劫 常在靈鷲山 及余諸住處 衆生見劫盡 大火所燒時 我此土安穩 天人常充滿 園林諸堂閣種種寶莊嚴 寶樹多叢果 衆生所遊樂 諸天擊天鼓 常作衆伎樂 雨曼佉羅華散仏及大衆**—が記されています。そして、「講義」161 頁には一小題「御本尊は常に “わが胸中” にある」のところで、最初の「**於阿僧祇劫 常在靈鷲山及余諸住處**」とは**文上からいえば**、阿僧祇劫という長遠の間、仏がこの靈鷲山に常住しているということです。また、十方世界のどこにでも出現されるということです。**文底からいえば**、私たち衆生がどこにしようと、どんな時でも嚴として**御本尊**は私たちの胸中にある。生命から瞬時も離れずつねに「私たちと共に」「私たちの側に」あられる。いつも一緒なのです。「常在」の二字を心に刻んでください。しかし、「新版」415 頁では**一上記文上からいえばが削除、文底からいえばが→私たちからいえば、御本尊→常住の仏へと変更!**

(私見) これは言語道断! やってはいけないこと! 池田先生がご指導の勤行の本義を隠蔽! そして、文底仏法と**御本尊の否定**で「新版」最悪の改竄だ!

在此而說法或時爲此衆說佛壽無量
 諸有惡業因緣過阿僧祇劫則皆見我身
 以惡業因緣過阿僧祇劫則皆見我身
 憂怖諸苦惱如是我淨土不毀而衆生盡
 散佛及大衆我淨土不毀而衆生盡

73. 「講義」182頁には自我偈本文の一**諸有修功德 柔和質直者 則皆見我身 在此而說法 或時爲此衆 說佛壽無量**—が記されています。そして、188 頁には一小題「今を大切にする」のが仏法の本質の精神」のところで**一大聖人は、末法の一切衆生を救うために、御自身の永遠の生命を御本尊として顕されました。これが「仏寿は無量なりと説く」という経文の文底の意です—**と。しかし「新版」439頁では上記の**赤字が完全削除**。
 (私見) 私たちが、朝晩の勤行で読誦の自我偈の重要句「**說佛壽無量**」(左、勤行要典12頁)について、池田先生が「講義」で文底から**一大聖人は、末法の一切衆生を救うために御自身の永遠の生命を御本尊として顕されました—**とご指導なのです。この一文こそ日蓮大聖人即**御本尊**、つまり「**人法一箇**」をご指導です!**それを「新版」はなぜ削除するのか! 日蓮仏法の奥義を削除、勤行の破壊だ!**

最後に、私のこれまでの拙文を掲示しました。ご高覧下さい。

(アテンション7編)

- 2025. 1. 16 池田先生の「法華経 方便品・寿量品講義」の「改ざん」の実態が一目瞭然! - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/uO8aTHHsn1Uq1oGgI>
- 2025. 2. 20 教義改竄の実態を具体的に解説 - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/rUvbUCzMZRZbgMZN9>
- 2025. 4. 15 戸田先生のご指導とも大違背の「新版 法華経方便品・自我偈講義」の邪説 - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/QyfOUjtjPR4M56JeM>
- 2025. 5. 7 凶齋氏が追撃弾! 全く反論不能の現創価学会 - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/4nbtX3NTNkpJrbssF>

2025. 8. 24 池田先生入信記念日に、破邪顕正の論考発表！ - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/YDDWNXEzTIfXcgm5W>

2025. 9. 12 岡齋氏が「教学要綱の不正」の続編を発表！ - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/pX63bWIXdPfnXGJUI>

2025. 11. 18 創立 95 周年を期して、岡齋氏が悪書「教学要綱」に更なる鉄槌の論考発表！ - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/DcQaf0Yo9GmOx5OA5>

(宗学コラム 21 編)

2025. 9. 29 「現代誤訳 四信五品抄 本尊問答抄」を読んで - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/rxk8T0hxyy552wG09>

2025. 11. 28 魂の独立記念日に思う—「教学要綱」の不正 - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/HhDdCFoFWcSVkEpyV>

2025. 12. 8 創立 95 周年、年末に思う—「教学要綱」の不正 - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/ngk4Ij0YIjN72ltCL>

2025. 12. 13 釈尊を「永遠の仏」とする聖教新聞の邪義！ - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/3bnY4oR23fnDlsOWn>

2025. 12. 18 (続) 釈尊を「永遠の仏」とする聖教新聞の邪義！ —AI が聖教新聞の不可解で詐欺的な文献引用姿勢を解説！ - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/gst62rydMRpYdfxLk>

2026. 1. 2 池田先生のご生誕日に思う-「教学要綱」の不正 - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/7Mw8y9QBF7JYNknVw>

2026. 1. 3 (続) 池田先生のご生誕日に思う-「教学要綱」の不正 - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/cjLL8sideWXGxQtdva>

2026. 1. 10 (更なる続き)池田先生のご生誕日に思う—「教学要綱」の不正 池田先生の著作指導の AI 検索化への疑問 - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/qMXKT1RxcValTz3rS>

2026. 1. 18 「御義口伝講義」を改竄の「我らは地涌の菩薩なり」を糺す - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/10L0rreurRQPmPSQE>

2026. 2. 11 戸田先生のご生誕日に思う—「教学要綱」の不正 - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/CdecUV1NhwTWEihyZ>

2026. 2. 11 戸田・池田両先生のご指導に違背した大白蓮華 1 月号を糺す - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/PtMsZ4fNQNZbCYj8r>

2026. 2. 16 日蓮大聖人のご生誕日に思う-近刊「法華経入門」の不正 池田先生が「法華経の智慧」でご指導された日蓮仏法の真義を無視する不知恩の書 - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/deY6hFeRD9rDYmoKs> 20/21

2026. 2. 26 (続)日蓮大聖人のご生誕日に思う-近刊「法華経入門」の不正 - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/RHxWjzbzGsiRq7CSwp>

2026. 2. 28 「開目抄」ご執筆の二月に思う新刊-「御書根本」の大道-の不正 - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/vwHKdmkzPDHsMWKOz>

2026. 3. 16 3.16 に思う—新刊「御書と師弟」の不正 - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/EP88GIsjWEMdbOTPG>

2026. 3. 20 「寿量の仏」を釈尊と回答する「SOKA D.I. SEARCH」の不正 御本尊様の相貌について大謗法の検索は即刻、廃止すべきである - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/lcZcm0F3ELamfWU0Z>

2026. 3. 29 「教学要綱」の不正記述13、及び、無視、削除された日蓮仏法の本義 - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/bW93pyQ684XYcNsFA>

2026. 4. 2 (追記版) 「教学要綱」の不正記述13、及び、無視、削除された日蓮仏法の本義2つ他 戸田城聖先生のご命日に、邪義-「寿量の仏」は釈尊-を糺す - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/OSyp1HG6fUZVuTu2p>

2026. 4. 28 立宗宣言の日に糺す—「教学要綱」の重大な不正・邪義17他 池田先生のご指導「文底が説かれて仏法は完結」を無視した邪義「教学要綱」を、破邪顕正する！ - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/GDOejCy25oTd57PTY>

2026. 5. 8 「池田大作 御書と師弟 新版」の改変問題他 - JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/WIZmiOVyZUcQTsOGx>

2026. 5. 17 聖教新聞の「諸法実相抄」解説他の不正を糺す！-2- JIKATSU | 創価自主活動支援サイト <https://share.google/4gMcnIA0jV87eAO4t>

